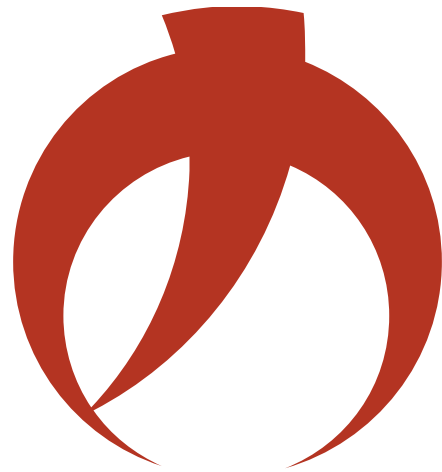
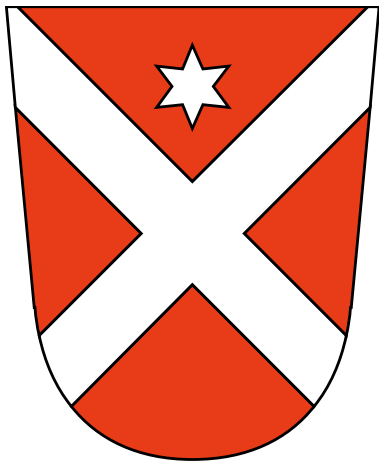

**令和元年度
国際交流視察団報告書**



令和元年11月 奈井江町

目 次

視察団派遣日程	1
視察団報告書	2～25
①奈井江町長	三 本 英 司
奈井江町教育委員会事務局長	松 本 正 志.....2
②奈井江商業高校 2年生	佐々木 彩.....19
③奈井江中学校 2年生	菊 永 凧 紗23



ハウスヤルビ町との交流に携わっていただいた
ヴォッコ・ラマさんとの再会



ホテル前にて
(左から 佐々木 彩・菊永 凧)

ハウスヤルビ町国際交流視察団日程表

令和元年9月26日（木）～10月3日（木）

日程	内容	
9月26日（木）	11:15 14:20 16:05	出発式（役場） 新千歳空港 発 中部国際空港 着
9月27日（金）	8:20 10:30 14:30 16:20 17:00	コンフォートホテル中部国際空港 発 中部国際空港 発 ヘルシンキ空港 着 リヒマキ市ホテルシアター 着 ホテル内で歓迎夕食会 〔 ヨーナス教育長 ホストファミリー パイビ ファミリー " エリナ ファミリー 〕
9月28日（土）	10:00 13:30 17:00	リヒマキ市内視察（狩猟博物館・ガラス美術館） ヒュビンカー市内鉄道博物館視察 歓迎会 〔 ハウスヤルビ町議会・町長・教育長 ヤーコラ元議長など交流に携わった方々 〕
9月29日（日）	10:00 18:00	ハメーンリンナ市内視察（オリンピック公園・ハメ城） 夕食会（ヴォッコラマさん）
9月30日（月）	9:00 10:00 11:00 13:20 14:00 14:40 16:40	ハウスヤルビ町内視察 ヒキア小学校 パイヴァ・コッティ幼稚園 イラアステ・ヤ・ルキア中学校・高校 図書館・図書館車 高齢者向けパソコン教室（議事堂内） オイッティ地区内公園（桜を植樹した公園） 歓迎会（議長・理事・町長・教育長）
10月1日（火）	10:00 11:00 12:50 15:00	ハウスヤルビ町内視察 障がい者グループホーム（イエルピエ）・訓練施設 介護施設（ラッシヘレミ～認知症専門） 福祉施設（レヒティマヤ～高齢者活動・ネウボラ） アンナ・カーリナ・ヤーコラ元議長 表敬訪問
10月2日（水）	9:00 10:00 15:00	ハウスヤルビ町役場訪問 リヒマキ市ハリウンリンテン中学校視察 （ロボティクス） 日本大使館 表敬訪問
10月3日（木）	9:00 17:25	ホテル出発・ヘルシンキ市内観光 ヘルシンキ空港 発
10月4日（金）	8:45 11:20 13:00 15:30	中部国際空港 着 中部国際空港 発 新千歳空港 着 奈井江町

【視察団員氏名】

団長 三本 英司
 団員 松本 正志
 " 佐々木 彩
 " 菊永 凧紗

ハウスヤルビ町の行政運営等の視察報告

奈井江町長 三本 英司（視察団長）

奈井江町教育委員会事務局長 松本 正志

ハウスヤルビ町との友好都市を締結してから、24年が経過しました。

これまで、両町では、保健・医療・福祉をはじめ地方自治や文化など、多岐に渡る交流を通じながら、歴史を築き発展を遂げてきました。

今回の訪問では、保健・医療・福祉をはじめ、子育てや教育など先進的な取り組みや現状を学ぶとともに、お互いの信頼を深め、更なる発展への想いを抱きハウスヤルビ町を訪れました。

私達4名は、令和元年9月26日、議長を始め家族の方々や関係者など、多くの方に見送られ奈井江町を旅立ち、中部国際空港で前泊の後、10時間のフライトを経てヘルシンキのヴァンター空港に到着しました。

到着後、ヨナス・リヒマキ教育長の出迎えを受け、高速道路経由で宿泊地リヒマキ市に向かいましたが、車窓から眺める景色では、沿線に連なるシラカバや樹木から自然豊かな国を感じるとともに、工場が立ち並ぶ中には日本の自動車メーカーなどもあり、世界で活躍する日本企業の努力を感じるものであります。

ホテルに到着後、教育長やホームステイのホストファミリーの方々による夕食会が行われ、和やかな雰囲気の中、長旅の疲れを忘れ時間を過ごし、最初の活動を終えています。

以下、ハウスヤルビ町の視察内容を報告いたします。



○ 交流に携わった方々からの歓迎会

これまで両町の交流の礎を築き、交流を深めてきた方々との歓迎会がハウスヤルビ町議事堂内で開催されました。

友好都市提携時のヤーコラ元議長の挨拶では「25年前、日本から紹介があった時、教育長と相談し交流を決めた。今日までの中では、財政的なことなど色々な出来事があったが、困難を乗り越えてきた。そして今、両町が発展を遂げてきている。

思い出深いのは、フィンランド木材を活用した小屋の建築に向け、奈井江町へ届けることに苦労したが、ミッションは達成できた。とても苦労したことであったが、嬉しかったことでもある。」と苦難を乗り越えながらも、交流事業を発展させてきた想いが紹介されました。

また、交流事業で奈井江町に来られたアロヴォッリ元議長やトルティーラ元教育長などの方々からは、「交流事業に携わった奈井江町の方が今でも健康で過ごしているのか」と言葉が寄せられ、両町の交流は深く根付いていることを実感しました。





キュオスティ・アロヴォツリ議長
理事の方々との懇談

アンナ・カーリナ・ヤーコラ元議長
マルク・トルティーラ元教育長
など、交流事業に携わった方々との
懇談

○ オイツティ地区の公園

ハウスヤルビ町到着後の歓迎会時に、両町の交流を記念して、2年前にオイツティ地区の公園に50本の桜の木を植樹したこと、そして今年1本の桜が咲いたことをヨナス・リヒマキ教育長や社会福祉サービス委員長のパイビ・アーリンニアリンさんから伝えられました。

また、別の日に開催された夕食会で、マッタネン町長からは「今後も植樹を行う予定があり、多くの桜が咲き続けることを期待している」と嬉しそうに想いが伝えられました。

25年間続いている奈井江町との絆を大切に、これからも交流を深めていくハウスヤルビ町の取組みと温かい歓迎に、ハウスヤルビ町や人々との繋がりを深め、交流事業の発展に努力を尽くすことを強く思うものであります。

ハウスヤルビ町の桜は、5月中旬から下旬に咲くそうですが、これから多くの花が咲き続けていくことを心から期待します。



公園のインフォメーション
1995年以來ハウスヤルビ町
公式の友情。
北海道奈井江町と記されて
います。

○ ハウスヤルビ町の行政運営

日本では、少子高齢化の進行や都市部への人口流出により、地域における自治体運営は厳しさを増している状況ですが、こうした状況は、フィンランドの地方自治体でも同じく、ハウスヤルビ町においても人口減少が見込まれています。

この課題に対しハウスヤルビ町では、若い家族に安価な土地と教育などの優れたサービス提供による定住を進めています。2020年にはリッティラ地区で建設を進めていた学校が完成します。

町職員は全体で432名、職員の平均勤務年数は約12年です。

フィンランドでは、医療や福祉の経費抑制に向けた改革を進めるため、政府と自治体で協議を重ねてきましたが、新しい政府が誕生し改革は変更となったことが説明されました。

計画が実施された場合は、医療や福祉に関する費用の50%が自治体負担となり、年間予算の1/2を負担することになります。新しい政府には、自治体に配慮した計画として完成することが期待されています。



○ ハウスヤルビ町の教育

(1) 幼児教育（パイヴァ・コッティ幼稚園）

ハウスヤルビ町のパイヴァ・コッティ幼稚園には50人の園児が通園し、1～2歳・3～4歳・5歳の年齢で別けながら活動し、プレスクールへと繋げていきます。

保育時間は朝6時30分から夕方5時で、早朝から預ける保護者の多くはヘルシンキなどの都市に通勤している世帯です。通園した園児はゲームや工作などを行い、朝8時から9時の間に幼稚園で朝食を食べます。各グループの活動プログラムは先生が作成し、1日2回は外で活動します。

先生の配置数は法律で1～3歳の園児には4人に1人、4～5歳には8人に1人、外国からの子どもには2人に1人と定められています。職員の勤務時間は7時間45分です。

フィンランドの出生数	
H25	11万人
H30	5.4万人
R元	5万人以下の予定

保育料は収入により変わりますが、ひと月の最高額は250€（31,000円程度）、仕事や収入が無い場合は無料としています。最近、保護者の収入が上がっている傾向があり、保育料は安価と感じられているものの、EU諸国と比べ通園率は低い状況となっています。通園条件の定めはなく、最低週20時間利用する権利を全ての子どもが持っており、両親が共働きの場合は利用時間が変わります。

ハウスヤルビ町には、個人や民間の保育施設があり、国の補助を活用しながら自宅で他の世帯の子どもを世話する取り組みが行われています。

(2) プレスクール・小学校（ヒキア小学校）

フィンランドの教育では、全ての人々が平等に質の高い教育や訓練を受ける権利を持ち、無料で教育を受けることができます。

義務教育課程は小学校6年間・中学校3年間で日本と同じですが、小学校入学は7歳からで、入学前6歳の1年間は学校生活を過ごすための準備期間（プレスクール）として、子ども達は遊び感覚を持ちながら、国のプログラム内容を基に学校と同じ目的のもと過ごします。

ハウスヤルビ町のプレスクールは、活動内容などから校内や隣接箇所に設置されています。訪問したヒキア小学校では、校内にプレスクールを設置し、19名の子ども達が通っています。3人の先生の指導を受け、1年生（14名）と同じ週20時間を校内で過ごしますが、このうち8時間は1年生との活動で、12時間は集団生活など学校生活の準備活動としています。

各活動では、子ども達が2人1組となり、先生の指導を受けながら他の子どもが困

った時には、その子どもを助けることを学びます。

1 時限の中でグループや教室を変え、座りながらの活動や廊下に掲示されたものを探するなど体を動かす内容で、探求心や好奇心、集中力を養っています。

訪問時には、おもちゃを使いながら、どのような組合せが 10 になるのかを考え、ペアの子が分からない時には教えながら、算数の学習に取り組んでいました。

1 年生との活動では、プレスクールの子が 1 年生を助けることもあり、年齢に関係なく、お互いを支え合いながら学校生活を過ごしています。

今後は、特別支援の子も一緒に活動することをはじめ、現在、6 年生が 1 年生を手伝う活動をしていますが、2 年生や 5 年生にもプレスクールを手伝う活動を加えていきたいなど、校内活動の充実を図る考えを持っています。



3 年生の算数授業では、校内に整備された学習システムを活用し、パソコンとノートを併用する内容で行われています。システムには教科書や問題を出す機能、回答を保存する機能があり、教師はパソコンを使い、子ども達全体の回答や考え方などを見ながら理解度を把握し、個人指導により自分で解決できるよう進めていきます。

また、校内には算数の教科のみですが、タブレットを活用し、個人の習熟度に合わせ、難しい問題にチャレンジできる環境整備をはじめ、飛び級の学習をすることも可能としています。

現在、飛び級で学ぶ児童が 1 年生に 1 名いることから、複数の教師でのチーム編成と学習プログラムを作成し、3 年生の学習（算数）に取り組んでいます。将来は、飛び級で学べる内容に母国語も取り入れていきたい考えを持っています。

こうした子どもがいることで、他の子どもが刺激を受けているかについては、児童は互いに比べることはするが、大きな刺激にはなっていないそうです。

特別支援の児童は 1 年生～ 5 年生にいますが、個人学力の差を埋めるため、児童によっては普通学級で授業や個人指導を受けています。

ヒキア小学校でも宿題を出していますが、個人に適した内容で出していくため、各

児童で問題が異なっています。1年生では、家で本を読むことや先生の判断により算数や書くことなど、復習を目的に平均 15 分程度の時間で出されています。当然、6年生では科目が増え時間も増加しています。

学校運営に関わる経費は、毎年、決定した予算額に対し各学校長の協議により、配分額を決定しています。決定した予算額に対し、各学校では教師 1 人当りの使用額を定め、教師はある程度自由に予算を使い授業を行います。

学習に要する費用では、教科書は 1 人当り 36€ですが、システムではライセンス料の 8€で済むため、毎年、ライセンスを購入し差額でパソコンを整備しています。

各学校の教師は、ある程度の期間で学校を移動しますが、国のプログラムに結果を出していくため、住民や子供たちの信頼を得ることに努め、地域から大切にされています。



(3) 中学校・高校（イラアステ・ヤ・ルキア）

ハウスヤルビ町中学校（生徒 230 人）は、1 教室 20 人、週 30 時間の授業時数としています。1 時限は 45 分から 90 分間の中で町が決めることができ、ハウスヤルビ町では 75 分や 90 分の授業もあり、60 分授業は 15 分、90 分授業は 30 分など、途中に法律で定められている時間に応じた休憩を取ります。

1 人の先生が中学生と高校生の教科を指導し、教科ごとに生徒が移動して授業を受けています。

ハウスヤルビ町では、高校まで授業料や給食費は無料ですが、教科書や職業学校で使う教材道具などは自己負担となります。

自分の選択制で 2 年間のパソコン授業を受けることも可能ですが、全ての教室にパソコンを整備することは財政的に難しく、中学校ではパソコン教室を 2 室整備し、小

学校では特別教室にタブレットを整備しています。通学では、町とバス会社の年間契約により、5 km 以上の児童生徒でスクールバスの利用を可能としています。(年間契約額 1,000,000€)

ハウスヤルビ町の高校には、生徒 52 人が在籍しています。

2015 年までの高校卒業前の試験（春と秋の 2 回）は、紙面によるテストでしたが、2016 年より国全体でパソコンを使った試験に変更し、回答はインターネットでヘルシンキに送られます。試験は 3～6 時間の 1 日行程で最低 3 時間を要することが必要です。

ハウスヤルビ町では試験対策として、高校 1 年生からパソコンを使い準備を進めていますが、パソコンは各自で用意する必要があり、全ての生徒が試験を受けることが出来るよう入学生全員にパソコン購入費（最大 500€）を助成しています。助成の手続きは、自分でパソコンを買った後、レシートなど確認できる書面を学校に提出し、補助金が支給されます。

パソコンは全ての高校生が必要となるため、購入しやすい環境を整えることで家族への支援に繋がることや、教科書が無くても授業が可能となるなど、学習環境をはじめ財政面に対するメリットから、補助金制度を設けています。ヨナス教育長は、この補助金が高校の生徒を増やすきっかけにと考えていますが、500€のために町外から生徒は来ていないと現状を教えてくださいました。

中学生と高校生が同じ校舎で過ごしていますが、高校生が中学生を教えるような取り組みは時間的にも難しく、実施はされていません。

美術や家庭科の教科は、1 年目が必須科目で 2 年目以降は選択制となっています。夜には、一般の人が陶芸制作など教室を使います。この学校には、ヘルシンキの学校でも 4 台、他の学校では設置されていない 3D プリンターが整備されており、町で整備されていることは大変珍しいと教えてくださいました。

(4) 図書館・図書車

町内にある図書館では、読書推進や町民への奉仕活動として、毎週水曜日に高齢者を対象に朗読活動や保健師も参加する健康活動をはじめ、月1回のイベントを実施しています。

図書館に借りたい書籍が無い場合には、近隣4町の図書館と本の貸出し協力を行っており、サービス提供に取り組んでいます。

このほか、子どもを持つ家族や高齢などで来館できない人に、本の貸出しが可能となるよう図書館バスで地域を巡回するサービスをしています。バスは5千冊程度の本を収納し、月曜日から水曜日で全ての地域を回り、木曜日から金曜日は幼稚園と学校を回ります。住民はインターネットで予約することや、予約した本をバス巡回日に借りることもできます。こうした活動により、年間約32,800人（うちバス利用者約10,900人）の利用に繋がっています。

館内には、英語などで書かれた日本の小説や漫画、歴史に関する書籍もありますが、日本語で書かれた書籍が無いことから、今後、日本語で書かれた歴史の書籍を、取り入れたいと希望を話していました。

現在、インターネットの普及により、特に若い世代で読書離れが進んでいますが、フィンランドでも同じ状況で課題となっています。読書活動の推進には学校との連携が重要と考え、学校と相談しながら実施されています。



(5) 高齢者向けパソコン教室（イキディギ）

IT化が進展し生活の利便性が増す中、ハウスヤルビ町では、高齢者が生活への不安を抱かないよう、昨年からは住民が主体となり、住民同士でパソコンやアプリの利用方法を教え合う活動に取り組んでいます。

毎週水曜日、庁舎内議事堂を活用しFacebookやメールなど、自分が利用したいことを学ぶ内容で、平均35名が参加し約2時間の活動が行われています。障害のある

人には自宅への訪問により実施されています。

事業は民間事業所との連携で実施されており、パソコンなどの機器については、最初の1カ月間は事業所から借用したパソコンを使い、その後、希望により購入について決めていきます。

事業参加の理由では「寂しいと感じる時、手を伸ばしインターネットを通じ話ができることや、会場で友人と話ができると思い参加しています。」と楽しみながら参加していることをはじめ、「銀行に行くのは遠くて厳しい。救急車を要請する112番への直接通報（日本の110番通報）ができ、位置情報もある。薬の処方箋で医師の確認を受け買うことができる。」など、口座管理をはじめ、薬を買うための医師への連絡手段として、インターネットの活用により生活の利便性を向上させる目的で参加していることが伺えました。

参加者には90歳の方もいます。

高齢者の方々は、個人差はありますが楽しく生活するために、沢山のアプリを使えるよう学習を続けています。



○ 福祉の取組み

(1) グループホーム（イエルピエ）

ハウスヤルビ町には、精神障がいのある方の施設「グループホームイエルピエ（3棟）」があり、職員18名の24時間ケアにより支援が行われています。

1棟には5人が入居し、若い人や高齢者など年齢や日常生活の過ごし方の違いから、リビングや居室など分けられた中で過ごしています。

また、家族の訪問時に休めることや、親などが入院した時には、残された家族が過ごすために、施設にはショートステイ用の部屋が1室用意されています。

障がいのケースは人それぞれであり、施設利用に対しては個人の状態を確認し利用施設を決めています。家族の希望により施設は選択することも可能です。

過去の法律改正により、施設利用から在宅支援へのシフトをはじめ、施設も大規模から小規模へと変化をしています。自分で生活が可能な人は入所が出来ないため、毎年、1人1人の心身の状態を確認しながら計画を立て、極力、自分の家で過ごせるよう在宅支援が行われています。

施設勤務者のトニさんから、在宅支援について家族の状況などを伺ったところ、「現状では、子どもを大切に育てる親も増え、以前よりもグループホームで過ごさないよう協力されている。施設を建てる場合、経済的な理由もあるが、その人自身のために他の方法でも生きていけるよう、町としても努力している。」と、状況を教えていただいた一方で「自宅で介護や看護などの支援を必要とする人は増えてきている。」と現状の課題も伺いました。

こうした課題にハウスヤルビ町では、在宅サービスが受けやすい環境として住居は出来る限り施設近くのアパートを探していること、また、国の制度を活用して家族の方にお金を支払い1日休めるようにするなど、出来る限り自分の家で過ごせるよう支援の取組みが行われています。

在宅支援の増加による体制等については、「施設スタッフという責任ある仕事に対し、勉強する人はいるものの仕事に就く人がおらず、スタッフの確保が厳しい状況であること。」また、「政府はスタッフ数を増やすため、全国的に施設や病院で400人雇う方針を決定したが見つからない状態である。夏には、職員の疾病時などの交代者がいない状態で本当に厳しかった。」との現状を伺いました。フィンランドにおいても日本と同じく体制確保が大きな課題となっています。

(2) 認知症施設 (ラッシヘレミ)

ハウスヤルビ町の認知症施設には、生活の全てに介助を必要とする高齢者20人が入居しています。

施設には夫婦用の2人部屋が2室、1人部屋が16室あり、1人部屋の大きさは14㎡でシャワーやトイレが整備されています。室内には、精神ケアに繋げるため机や写

真など本人の使用物が設置されています。

スタッフ数は15人で、夜は職員が1人となるためセンサー対応となります。

常勤の看護師は配置されていないため、入居者の中で体調が急変した場合には、短期間で看護師が配置されます。看護師の配置について、リヒマキ市と契約したことから、来年、短期間の常勤看護師が配置されます。

施設では朝と夕方にオムツ交換を行います。施設ではオムツを使用しても生活習慣を忘れさせないように、入居者には手洗いを促しています。

また、可能な限り自分で排せつや食事が行えるよう支援に努め、成功した時にはオムツを外す取組みをしています。

自分の居室をわかり易くする取組みでは、各居室のドア付近の壁に色をつけて忘れないように工夫がされています。しかし、工夫されている中であっても、間違っ入居することがあり、入所者同士のトラブルは時々発生し、すぐに仲裁に入る対応が行われています。

施設では、医師の判断により、入居者がケガをしない為に拘束をすることは可能ですが、拘束しないことを基本としています。また、ベッドからの転落や歩行中に転ぶなど、事故は発生していますが、何かある時は速やかに家族に連絡するなど、家族との関係を大切にしていることから、家族も施設が一生懸命に尽くしていることを理解し、申し立ては殆どない状況です。現在、入居希望者は3カ月の待機状態となっています。

(3) 福祉施設（レヒティマヤ）

・在宅支援（閉じこもり防止活動）

ハウスヤルビ町の福祉施設「レヒティマヤ」では高齢者へのサービス機能や子育て支援の機能を有しながら、幅広い年代に対応する複合施設として運営されています。

町内では高齢化が進行していることから、在宅高齢者への支援として月曜日から金曜日（午前9時～14時）の間、閉じこもり防止活動が行われています。

参加は登録制で、本人希望や訪問看護の看護師が決めるケースにより、30名の登録者から毎日8名程度が参加しています。

参加者は、家族の送迎や施設のジャンボタクシーによる送迎で来館します。遠い所では 20km 程度あり、その日の参加者によりルートを変えながら運行しています。

参加料は食事などを含め 1 日 26€。2 人の理学療法士がプログラムを作成し、部屋に設置した TV に写しながらゲームや音楽、数学などの問題を行い、参加者はリラックスした中、楽しみながら 1 日を過ごしています。

10 月中旬には、国の取組みとして外出チャレンジ月間があり、在宅や施設で多くの人が外出する機会を増やすプログラムの作成と実施により、その成果を国に報告しています。

＜プログラム内容＞	9:00 ~ 朝食
	町からイベントなどのインフォメーション
	1 階ホールで体操
	ゲームや会話の交流、礼拝など
14:00	家族やタクシーの送迎で帰宅。

・訪問看護

訪問看護などの在宅サービスでは、看護師や介護士など 26 名のスタッフが勤務し、本人や家族との相談をはじめ、状況確認によりサービス内容や回数を決定し実施しています。

定期的に訪問する利用者数は 80 名で、基本的には 1 日 1 回の訪問としていますが、必要な支援に合わせて 5 回の時もあります。

訪問時には、ベッドから起こし、食事や服薬などを行い、できる限り体を動かす内容で実施しています。サービスの中には、食事を届けるサービスや、タクシー送迎により施設のサウナを利用するサービスも行われています。

一人暮らし高齢者の寂しさの解消を図るために、他の高齢者と交流するパソコン教室なども開催しています。

利用料は、介護状態の軽いケースは自己負担となり、重いケースには国の支援があり

ます。収入やサービス回数等により負担額は異なりますが 100～200€となっています。

・子育て支援（ネウボラ）

フィンランドでは、全ての子どもを平等に扱い見守っていく考えのもと、妊娠から出産、就学前までの育児について、相談や検診などにより継続的な支援を行うため、各自治体が「ネウボラ」という拠点を設け運営しています。

ハウスヤルビ町では、レヒティマヤ施設内ほか2地域で実施されています。

レヒティマヤには3人の看護師が勤務し、妊娠の計画や相談など、家族が元気に過ごすことを目的に、子どもの健やかな育成に向けた支援のほか、親も成長させるための支援として、ファミリープランニングを作成しています。

妊娠後は、医師が2回、看護師は9～10回の面談を行います。出産後は看護師が1週間以内に訪問、翌週に2回目の訪問を行い、その後、施設には月1回訪れる内容で、医師は4週・6週・8週・12カ月・4歳で子どもの状況を診ていきます。病院では12週と20週目に身長・体重・生活状況などによる健康確認など、それぞれが役割を持ちながら実施していきます。2019年は50名の出産が予定されています。

ネウボラは6歳までを対象に行われ、医師や心理学者、助産師、教会のメンバーが夫婦を招き、子どもを産むことや夫婦の関係、子どもへの関わり、洗礼の話など4回に渡り話を行います。親への指導では、精神的な準備を含め親になることが大切であることや、子育てへの不安などを聞き取りながら指導をしていきます。

7歳からは小学校の責任に移行し、入学後、学校で健康状態を確認していきます。子どもの情報はネウボラや学校で共有はされておらず、学校の情報を利用する場合には親の許可が必要となります。特別に支援が必要な子どもには、学校やネウボラの看護師が相談を行い、対応の検討とともに学校に情報が渡されます。

ネウボラのアヌ・アホラ看護師からの医療についての説明では、小規模自治体では医師の雇用が財政にも厳しいことから、各自治体が協力しあいサービスの充実に繋げていくことを目的に、ハウスヤルビ町・ロツピ町・リヒマキ市の連合により実施されています。

病院はリヒマキ市に統合したことから、ハウスヤルビ町には学校医とネウボラの医

師が勤務しています。統合により医療相談や他の方法を学ぶことも可能になったことをはじめ、国のセミナー内容などを町に教えていくことも同時に行えるなど、広域連携のメリットが伝えられました。

○ リヒマキ市の特色ある教育

ロボティクス（リヒマキ市 ハリウンリンテン中学校）

ハウスヤルビ町に隣接するリヒマキ市では、特色ある教育活動としてロボット教育を推進しており、今回、ヨナス教育長に配慮いただき、視察を行っています。訪問先のハリウンリンテン中学校では、エッサ・サンタカーリア氏（リヒマキ市教育長）から、今後の計画やこれまでの取組みなどの説明を受けました。

リヒマキ市では、将来に向けた計画の一つとして、2030年までに国全体が進めるロボット教育の首都（中心）になる目標を掲げています。その実現に向け、計画ではロボットの勉強を幼・小・中・職業学校で繋がりを持ったカリキュラムとして、全ての小中学校でロボットクラブを設け、国際コンクールへの参加を2019年から実施しています。

ロボット学習は、EUの補助を受けた中、学校や市が民間会社と協力しながらレゴブロックやベックスという教材を実施され、2030年にはロボットキャンパスを造ることを目指しています。

教育課程では、義務教育時（7歳～15歳）のロボット教育の成績が高校や職業学校への入学に反映されるなどの仕組みを作り、その後の大学や専門学校への入学にも繋がるよう、国や大学、高校と議論を交わしているところであり、これから協力が始まる予定とのことでした。

義務教育の期間、学校でのクラブ活動時間は年250時間とし、5年生から9年生は選択により、更に200時間の活動が可能で、国際コンクールや世界大会を目指す熱心な子は何百時間も活動をしています。

また、ロボット学習では、それぞれの年代で関心を高めるため、10科目から3科目を選択し、各学年がゲーム感覚のもとプログラムや操作など、楽しく学べる内容で授業は行われます。ハウスヤルビ町からも小学校卒業後、毎年15人程度がロボット

クラブの活動に通っているそうです。

2018年のロボット世界大会には、40カ国から800以上のチームが参加し、リヒマキ市からは3チームが参加しています。

世界大会に参加したチームの大会までの取組み内容では「大会は障害物を持ち上げてゴールに入れる加点式で行われる。どのように動き、何をさせるか、分担してロボットのプログラムを作成。各自が考えた内容をチームで協議しながら、実験を重ね問題を解決し完成させていく。様々な意見はあるが、チームワークで運営する考えを大切にしている。0からのスタートで、問題の解決方法やプログラミングのアイデアは全てインターネットから情報を得て、自ら考え、学ぶ仕組みとしている。」と説明を受け、各自が主体性と責任を持ち活動している状況を知り得ました。

また、「他の学校でもプログラミングは学べるが、ここでは作ることもできる。将来、自分に必要なことになると思い学びたいと感じた。そして、この取組みで得た内容は、他のチームにも分け与えるようにしている」との話から、情報という財産を分かち合った中で、生徒自身が更に学びを深めていく姿勢に感心を抱いたところでした。

教育長やクラブ活動の顧問からは、「問題解決・競争に向けた活動は、将来の役に立つ。他のチームも各アイデアを持っているが秘密にはしない。分け与え助け合うことが大切」と教育に対する考え方と合わせ、ハメ県全体でロボット学習はで力を入れており、国内ではリヒマキ市の中学校が1位となっていることの説明を受けました。



○ おわりに

今回の訪問視察では、日本同様にフィンランドにおいても、地方では少子高齢化の進行や都市部への人口流出など課題から、財政面や人材確保など厳しい状況にあることが伺えました。

このような中、ハウスヤルビ町では、都市に近いとした地理的優位性を活かし、住

宅施策や教育、福祉、介護とした様々な施策の充実と展開により、人口減少の抑制に効果を発揮していることが伺えます。

奈井江町においても、少子高齢化や人口減少の進行が予想される中、この交流活動とともに、お互いの取組を学び合う活動を更に深めていくことが、両町の発展に繋がると感じ得た訪問であります。

9月26日から10月3日までの滞在期間中、ハウスヤルビ町の皆さんには、暖かく親切丁寧に迎えていただき、また、両町の交流事業に携わった方々との再会を通じ、交流事業が確実に定着していることを実感しました。

あらためて、ハウスヤルビ町の皆さんには感謝を申し上げます。

今後、これまで両町で培ってきた絆が更に深まり、将来に渡り発展し続けることを期待し、視察の報告といたします。



【右から】 ペッカ・スオネン管理マネージャー
ヨーナス・リヒマキ教育長
三本 英司 団長・佐々木 彩
菊永 凧紗・松本 正志

ハウスヤルビ町を訪れて

奈井江商業高校 2年生 佐々木 彩

(ホストファミリー：エリナ・ヴィータラ)

【1日目】

不思議と不安や緊張といったものはあまりなかった。そのまま両親や校長先生、奈井江町役場の方たちに見送られた。千歳空港に着くと昼食を食べ、搭乗手続きと手荷物検査をした。飛行機は中学



生の時に一度しか乗ったことがなく少し怖かった。中部国際空港に着きホテルへ向かった。空港で夕食を決める時フィンランドの主食は芋やパンと知っていたので、ご飯が良いですと言うと味噌カツを食べることができた。初めて食べる味で美味だった。ホテルでは一人でゆっくりと過ごした。

【2日目】

朝の目覚めが家にいる時よりとても良かった。朝食をしっかりと食べ、荷物を持って手続き検査を済ました後、少し空港で自由に周ってから飛行機へ乗りこんだ。飛行機がとても大きくて、映画を観ることができたり、音楽を聞いたりゲームもすることができるようになっていた。10時間という長い間のフライト時間だったので寝た方が良かったと思ったが、寝ることができず映画を6本以上見てしまった。機内食もとても美味しかった。

10時間のフライトを終え空港に到着したとき、外の景色が明るく、日本からずっと昼が続いているみたいで不思議な感覚だった。また、気温差が激しく寒かった。入

国審査を無事に通りお出迎えを受けた。ホテルに向かっている最中、車が右側通行で日本と違って面白かった。歓迎会の直前くらいから不安や緊張というものが込み上げてきたが、ホストファミリーの方からたくさん話しかけてくれたので安心した。食事の食べ方があまりわからなかったけどホストファミリーの方が教えてくれた。すごく美味しくて、もう少し食べたいなと思った。

歓迎会が終了し、いよいよホストファミリーの家へ向かった。キャリーケースを持ってくれたり、とても優しくかった。また、ホストファミリーのエリナも私と同じ様に日本に来ていて、その時の話をたくさん聞いた。私が日本



から持っていったお土産をととても喜んでくれて嬉しかった。1日がとても長くて疲れたが、明日が楽しみという気持ちでフィンランド初日を終えた。

【3日目】

疲れていたが、朝早くに目が覚めた。朝食はとても豪華だった。日本の朝食の話や「いただきます」「ごちそうさま」などの日本語を教えた。また、エリナの作ったブルーベリーのパイはすごく美味しかった。朝食を終えると大きいショッピングモールへ行った。そこでフィンランドの有名なお菓子や雑貨などを買うことができた。エリナが私にムーミンのコップを買ってくれて、本当にうれしかった。ユーロで支払うのが不安だったが、エリナに手伝ってもらいスムーズに支払うことができた。

午後からは何を話されているかよくわからない食事会に参加した。お偉い人たちが話している最中にエリナ達と静かに話しをしていた。ここではフィンランドを代表する料理がたくさんあった。たくさんの人と握手をして話しをした。また、「ここに来て良かったと感じますか？」と質問をされて、私は「はい」とすぐ返事をした。そのく

らい2日間が楽しく過ごせていた。

【4日目】

食でエリナと母が作った健康スムージーを飲んだ。エリナは苦手らしいが私は美味しいと感じた。

その後、湖と森に行った。湖はとても綺麗だった。晴れていたらもっと綺麗に見えたのだろうと思った。塔に登ったり、階段をたくさん下がったりして足が痛くなった。でも湖も森も本当に綺麗で



たくさん写真を撮ることができて良かった。家に帰るとエリナの祖母がいた。祖母は私に自分で編んだ靴下とフィンランドのキャンドルをくれた。また、祖母と一緒にフィンランド伝統料理を食べた。とても美味しかった。16時過ぎにフィンランドのサウナに入りに出掛けた。サウナはとても暑かったけど気持ち良かった。エリナたちは冷たい水の中に入っていったりしていたが私はそんなことできなかった。外の気温がとても寒くて早くサウナに行きたくてしかたなかった。その後はマシュマロを焼いて食べたりソーセージを食べたりゆったりとした時間を過ごした。家に帰ると今日汚れた服を洗ってあげると言われ、お願いしますと返した。明日からは学校だということで少し早めに寝た。

【5日目】

学校に行く準備をして皆で学校に向かった。学校に着くと学校紹介みたいな感じで色々な場所を周ったし、授業にも参加した。授業中・休憩中と、日本とは全く違う、日本の学校では考えられないようなことがたくさんあって新鮮だった。学校が終わるとエリナが迎えに来てくれた。家に帰るとご飯がでてきたが、その中に米があって驚いた。とても美味しかった。その後スカウトというものに向かった。そこで私は日本

語を教えたり日本の文化を教えたりした。そこでフィンランドの言葉もたくさん教えてもらった。帰るとエリナが、少年少女達はあなたを愛していますと言ってくれてとても嬉しかった。

【6日目】

朝から昨日と変わらず学校に行き、放課後はエリナの祖母の家に行ってフィンランドの料理を食べることができた。祖母はとても優しい方でたくさん話しかけてくれた。祖母に会えるのは最後だったので少し悲しかった。その後は学生がたくさんいる所へ行った。そこではみんなボードゲームをしたりビリヤードをしたり様々な活動をしていてとても楽しそうだった。初めてやる外国のゲームもちゃんと説明しながらやってくれてわかりやすかった。家に帰るとお母さんがいた。ご飯を一緒に食べているとお母さんから「明日は最後の夜ですね」と言われ少し悲しくなった。その後にもここに来られて良かったなど自分なりに感謝を伝えた。

【7日目】

学校が一時間早くあった。朝はとても寒かった。体育があり森の中をたくさん歩いた。途中から疲れが凄かったが、色々な物を見ることができてよかった。学校が終わると昨年奈井江町に来たエリナの友達とヘルシンキの大きなショッピングモールへ行き、そこでミニゴルフをした。様々なギミックやコースがあって本当に楽しかった。帰る前にお土産と飲みものを買った。帰っている時、途中でエリナが犬の世話に行ってしまう、またお母さんと家で一緒だった。疲れてしまっていたのですぐ寝てしまった。

【8日目】

最初は長いなと思っていたフィンランドでのホームステイもあっという間だった。最終日だったのでホストファミリーのみんなにお礼を言いたかったけど、忙しそうでお母さんしかいなかった。朝食の時にフィンランドはどうでしたかなどたくさん話せて良かった。スーツケースを持ち、最後の学校へ向かいました。お母さんとは学校で

お別れでとても悲しかったけど、たくさん感謝を伝えました。ミンラが泣いてしまっていて自分も心が悲しくなりましたが、たくさん「ありがとう」と言って学校を終了し、みんなと別れました。その後はデパートに行ってから空港に向かった。また10時間のフライトをして日本に戻ってくることができた。北海道に着いてから奈井江町役場に着くまでの記憶が全くなかった。

視察団の一員としてフィンランドへ行くことができ、貴重な経験、体験がたくさんできました。一生体験することはできないであろうことをできたのは奈井江町、両親、学校の先生方、そして私を受け入れてくれたホストファミリーの方々のおかげです。この貴重なフィンランドの経験をこれからの生活、また将来に活かしてい

ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年 菊永 凧紗

(ホストファミリー：パイビ・ポットネン)

【1日目】

2時間目が終わって、役場に行くとき、みんなと9日間も会えないのか、家族とも離れるのは心配だなという不安な気持ちでいっぱいになりました。高田慎之介さんが一緒に行くことができなくなってしまったこともあり、私の心臓はドキドキでした。役場に到着



して出発式が終わった時、私の不安がピークに達しました。少し悲しみもありつつ、家族や役場の人に見送られ千歳空港へ向かいました。飛行機に乗り、中部国際空港に到着できた時はほっとしました。夜は味噌カツを4人で食べました。すごくおいしかったです。夜ご飯が終わるとホテルの部屋で一人、ゆっくりしました。一人で過ごしたり、寝るのは少し怖かったけど部屋につくと家族や友達から「頑張ってるね」というメッセージがたくさんきたので、すごく嬉しかったです。夜はぐっすり眠れたので良かったです。

【2日目】

朝食は佐々木さんと二人でバイキングに行って食べました。空港で荷物検査が終わってよいよフィンランドへ出発です。私は不安でたまりませんでした。飛行機内では映画を見たり、ゲームをしたり、音楽を聴くことができました。でも、私はそのどれもしていませんでした。睡魔に襲われ、10時間のフライトのうちの半分以上は睡眠で過ごしました。殆ど寝ていたため機内食が2回あったうちの1回は逃がしてしまい

ました。起きている時間はぼーっとしていたり、家から持参していた小説を読んだりして過ごしました。

やっと 10 時間が経ってヘルシンキ空港に到着しました。私が一番心配だったのはホームシックです。小さいころから、家族が大好きで親の仕事の宴会などでも、泣きながら追っかけてついて行っていたので家族と離れて精神的に辛くならないかなと、とても思いました。入国審査を終えると、NAIE と書いてあるものを持っていた人が出迎えてくれました。その時は会話ができるか心配でしたが、通訳さんがついてくれていて安心でした。でも、自分でもちゃんと話さなきゃと思いました。車に乗って高速道路を走り、ホテルに到着しました。

歓迎会ではホストファミリーとたくさん話しながら食事しました。ホストファミリーのポットネンさんに自己紹介し、フィンランドのことについて話しました。歓迎会が終わると、スーパーに行って少し買い出しをしました。レジは日本とは違い新鮮な感じがしました。

家につくと、4 人の兄弟とお父さんに会いました。みんな元気で楽しそうな家族だなと思いました。お土産を渡すとすごく気に入ってくれました。嬉しかったです。もうすでに疲れていたものでシャワーに入って、すぐ寝ました。寝る時は同い年のミンラと一緒に寝ました。

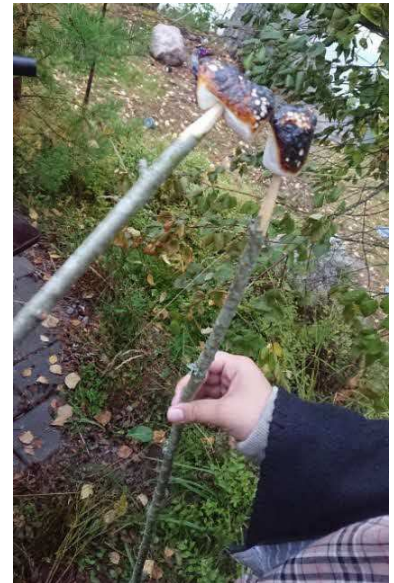
【3 日目】

エリナと佐々木さんとミンラと 4 人でモールに行きました。ムーミンのものがたくさんあってどれも可愛かったです。昼はハンバーガーを食べました。ハンバーガーは日本と変わりませんでした。オレンジジュースに果肉が入っていて、果汁 100% のジュースでした。その後、柄が変わるコップや、自分たちの好きなグミを買いました。すごく楽しかったです。家に帰ったら次の日の予定を確認したり日本とフィンランドの違いについて話しました。ミンラがウクレレを弾いて聞かせてくれました。フィンランドでは音楽の授業でウクレレを弾いたりするということがわかりました。すごく

上手で聞き入ってしまいました。寝る時間になると、不安は解けていました。ホームシックになる心配も次第になくなっていったので良かったです。

【4日目】

エリナのお母さんがフィンランドで有名な塔に連れて行ってくれました。たくさんの階段を上りました。やっとの思いで塔のてっぺんにつくとそこは絶景でした。自然がすごかったです。自然を見た後は疲れていたのので小さいリンゴを食べて水分補給しました。お昼になってホットチョコレートを飲んだり、パンを食べました。ホットチョコレートは寒いフィンランドにぴったりの飲み物だと思いました。すごくポカ

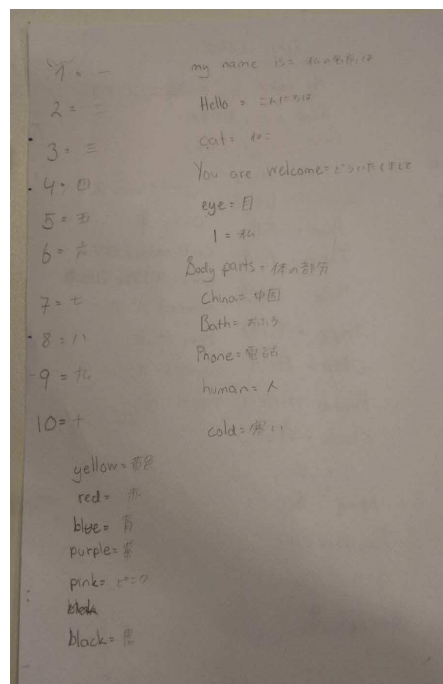


ポカしました。夜はサウナに入りました。外はすごく寒かったけどサウナで温まることができました。サウナから出ると、外でソーセージやマシュマロを焼いて食べました。近くの木の枝をとってきてその先端を削ってとがらせて自分でマシュマロを刺してみました。キャンプ気分でした。家に帰るとピザが作られていました。食べ方は日本と違って、フォークとナイフを使って食べました。ピザをフォークやナイフで食べるのは少し難しかったです。今日も楽しい一日でした。

【5日目】

学校は始まるのは9時で、日本より遅かったです。自分たちのクラスの教室は無く、朝の学活もありませんでした。授業の始まりと終わりにはチャイムが鳴りませんでした。そして、休み時間がなによりもつらかったです。フィンランドでは次の授業に集中できるように、休み時間は外に出て新鮮な空気を吸うそうです。寒い中、10分ほどの休み時間を過ごすことはつらかったです。一日の中で音楽の授業が一番楽しかったです。私はベースとアコースティックギターを弾きました。いろんな生徒や先生が優しく教えてく

れたおかげで上手に弾くことができました。給食は11時くらいでした。早かったのが家に帰るとおなかがすいてトーストをミンラと食べました。放課後はスカウトというのをしました。そこでは、日本語を小学生にたくさん教えました。みんな上手に発音できていてすごいと思いました。



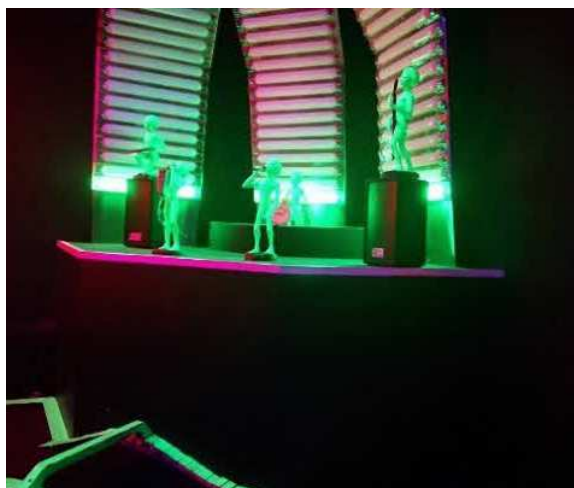
【6日目】

今日は学校でたくさんの方が「こんにちは」と声をかけてくれました。すごく嬉しかったです。化学の授業は中学三年生レベルの問題で難しかったです。でも、数学は中学一年生レベルだったので簡単に解くことができました。先生の説明はすべて完全には理解できませんでしたが、問題を一緒に解くことができ良かったです。家庭科は日本より技術が発達していました。放課後は青少年センターという所に行きました。そこには学校の同じクラスの人たちがたくさんいました。パンケーキを食べたりゲームをして楽しみました。午後4時から午後7時までびっちり遊んで楽しみました。すごく楽しい時間を過ごすことができました。

【7日目】

今日はいつもより早くて、8時から学校が始まり、7時間授業でした。1,2時間目は体育で学校の近くの森を歩きました。木についているピンクの紙を必死に探しました。チームの4人で協力してすべての紙を見つけて学校に戻りました。すると、殆どの方がもうすでに到着していました。でもすべての紙を見つけたのは私たちが一番先でした。

放課後は、昨年奈井江町に訪問したイミとの再会でした。エリナがイミと連絡を取ってくれて会うことができました。エリナ、佐々木さん、ミンラと4人で会いに行きました。会った瞬間は嬉しくてなんて言ったらいいかもわかりませんでした。5人でユンボという場所に行きました。たくさんお買い物したり、ピザを



食べたり、ゴルフをして遊びました。時間があっという間に経ってしまいました。帰りの車の中では疲れて爆睡してしまいました。イミともお別れしなきゃいけない時間になりました。イミが日本で撮った写真をUSBにまとめてくれました。嬉しかったです。今日がミンラと一緒に寝る最後の日です。寝る直前までたくさん話しました。

【8日目】

もうお別れするのかと思うとすごく寂しかったです。1時間目が終わってお別れの時になると、ミンラが泣きました。私は、涙が出そうなのを必死にこらえました。お友達やミンラと写真を撮りました。ミンラと一緒にいることができるとてもよかったと実感した瞬間でした。

ミンラと過ごせた日々はとても充実していて、感謝しきれないほどでした。

今回フィンランドに視察団として行くことができ、とても良い経験になりました。ホストファミリーの家族はもちろん、ミンラの友達、学校の先生方、そして奈井江町にとっても感謝しています。フィンランドでの経験を今後活かしていきたいです。

支えてくれた方々ほんとうにありがとうございました。